

重要文化財金沢城石川門保存修理



金沢城石川門の創建に関しては明らかでないが、御城中総御櫓並御門絵図によってその姿を知ることができ、現存の建造物は、宝暦9年(1759年)4月10日の大火により焼失した後に、天明8年(1788年)3月に再建したものであると棟札から知ることができる。

昭和28年から34年までの大修理以来、大規模な修理を行っていなかったが、近年老朽化が進み、傷みが激しいことから、平成16年から2年をかけて破損箇所の調査及び修理方法の検討を行い、平成18年より8年にわたる大修理を行っている。

<主な工事概要>

- ① 附属右方・左方太鼓塀の解体修理(控柱をコンクリート製から木製に復原)
- ② 表門、北方・南方太鼓塀、櫓門、続櫓、櫓の部分修理(鉛瓦、漆喰壁、海鼠壁、金具、建具等)



附属左方太鼓塀控柱組立状況



続櫓の海鼠壁目地漆喰塗状況

 能登ヒバ・スギを使用

DATA

⑤公園休憩施設
金沢市丸の内地内
平成18年12月～平成26年3月
木造:地上2F
のべ435㎡